

^ 13
3661



門へ13
號3661
卷

風来六部集序

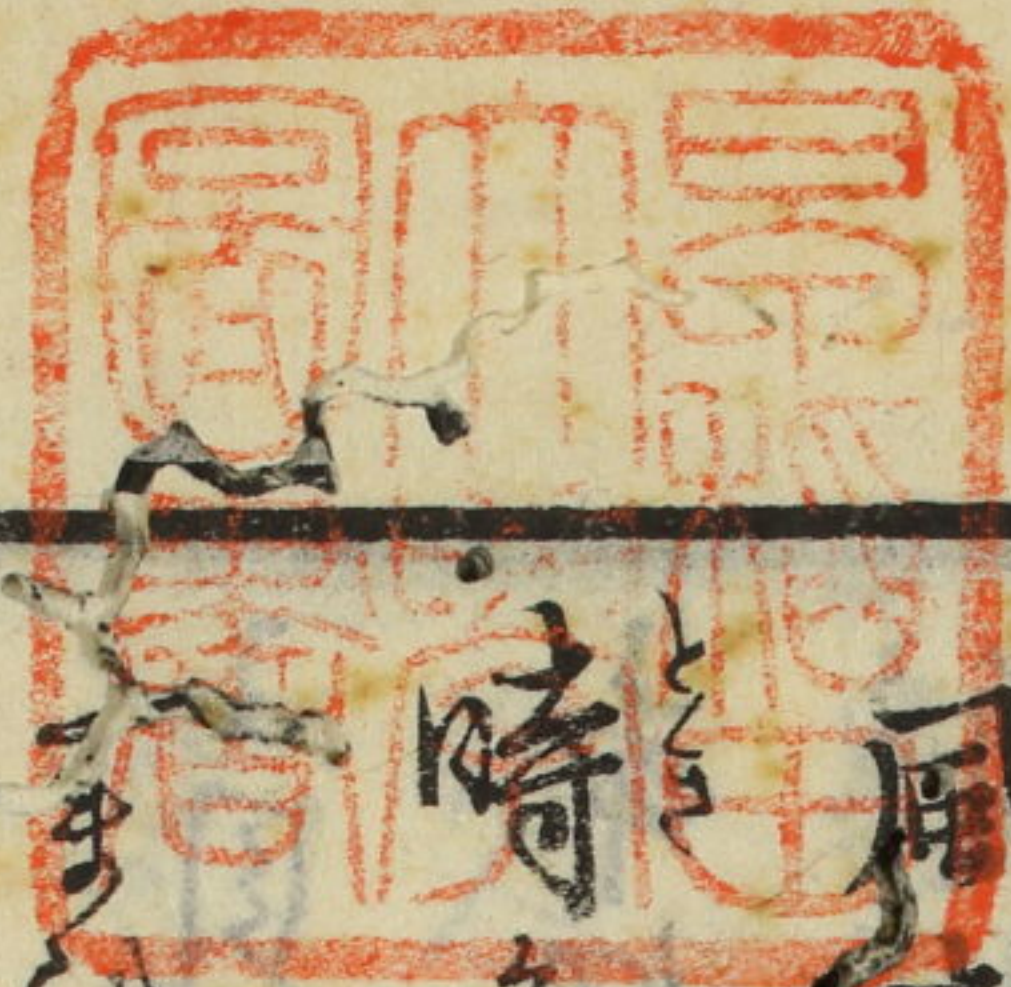
時^{とき}ふ^あ遇^あざ^れれ^の孔^{こう}子^しと^をお^か茶^{ちや}茂^ま成^{じやう}行^{ぎやう}キ

多^{おほ}の^ほ管^{くわん}仲^{ちゆう}が^が鞅^{きやう}智^ちも^も能^よ所^{ところ}く^の業^{ぎやう}忠^{ちゆう}

桓^{くわん}公^{こう}の^の揚^{やう}信^{しん}と^と成^{じやう}多^たの^の遂^{すい}に^に音^{おん}國^{こく}は

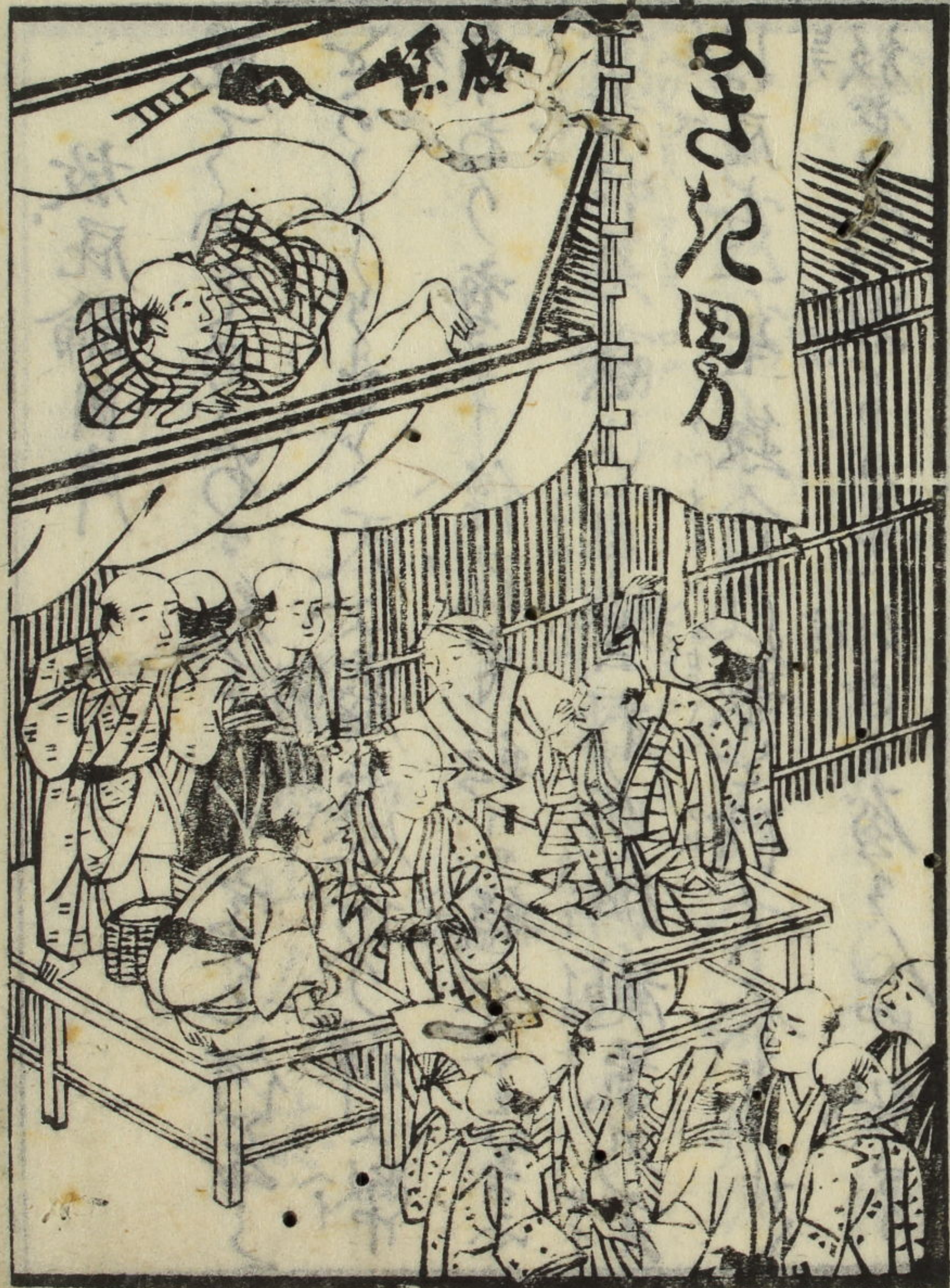
お^おの^の人^{にん}と^とあ^ある^る予^よが^が先^{せん}師^し風^{ふう}来^{らい}山^{さん}人^{にん}

者^{もの}昔^{むかし}青^{せい}雲^{うん}の^の横^{よこ}成^{じやう}踏^{ふみ}失^して^て天^{てん}竺^{ちく}

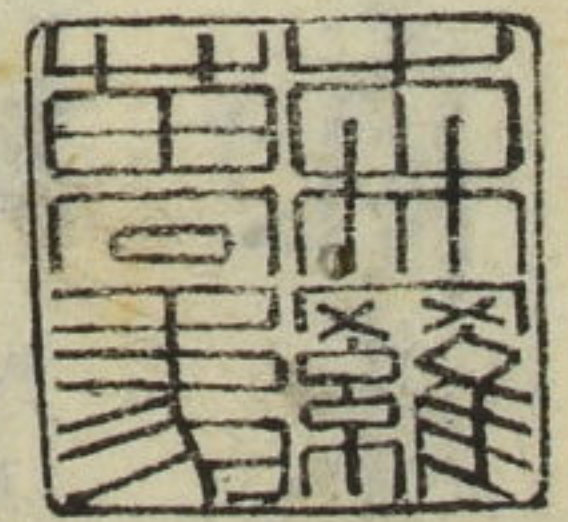
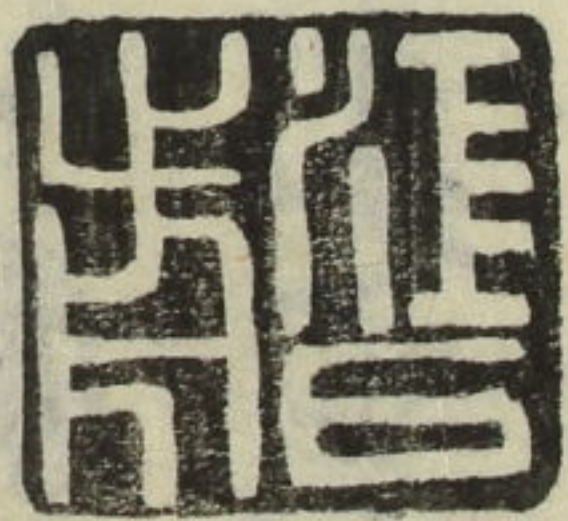


浪人と成りより陰流の水移に濁
醒れ世の醉と醒し吐きしる酒
及はる醉のほききりしきく酔漢共
二目次四すをよ楽の書物を總の
本に去流め世にける物大きなり
頃目書林法平版見小冊一々續

早子且ちよ何とと教養を回
後あるの然きこと厭ひ六部と
合して二巻とす是と早して目次
六部集と教養今多く残心が要結
書を八部せんともする六部す唯是
會刻の六部のみ教施



于時安永九年五月十六日下界
 隠士天竺老人てんぢくろうじん 抄まゆみとておんりつ男と
 孫まご



放屁論自序

屁ヘのノありノあるノありノへの字を何ぞ
とノのノしノとノとノと天ノの霹ヘキ靂レキ何ノの神ノの幣ヘイ
帛フありノ奪フ不レ徑フ弦フ有レ船ヘ之ヘ王ノ葉ノ不レ
女メ者ノ何ノの虫ノにレ氣ツ蟄レありノ狐イ麴イ氣ノ乃シ其ノ
後ノ屁ノをレ一ケ生ケ無ク命メ比カ敵キとレ防フくレ人ノとレ引ク
放フぎレ人ノバノ獸ケもレこノをレ如カざるノ腐クるノ人ノ也ノ放フるノ

臭カありノ屁ノをレ君子クニシありノとレ久クばレ漢アのノ漢ノ
とレ今ノ判ノ乃シ
撒ハ氣キ漢ノ論ノとレ他ニ授コ兩ノ國ノ橋ノ

風来山人誌

淡

放屁論

人參香を修クダク。癩漢タハクの癖クセ。河豚汁フグジュ喰ふク。
て長壽ナカイキある男オトコと女メ。一度で父チチあり子コ。
孕ハラび下女シヤメあむ。毎晩マイバン教養コウカウ受ふて鼻ハナの
臭ニホいある。奴ヤツコ何ナニの丈タカもあれど嗚呼ア天テンは
命メイ短ミダシ。又物の流行ハヤルと不流行ハヤラガルを時トキ乃ナ社会シャカイ
不修フシユ合カウを。又ハ趣向シュカウの善悪ゼンアクよよもあらん。

稲イネ穂ホ氣キどド。子コが不修フシユする。仲ナカが功コウ者シャ。
金カネ作サクが聖エイ教キヤウ。廣ヒロ治チが潤ニホ子シ之シ又マタ帝テイが志シこコ。
梅ウメ幸キョウ浪ナミ心シンを引ヒキげ。高トウ之シ東トウ都トは名ナと影カゲ。
川カハ口の系ケイ治チ。浅アサ系ケイは群グン集ジュ。深フカ川カハの善ゼン力リキ。在ア。
系ケイの倭ヤマト沙サ洲シュハ本ホン挽マキ町チヨウ子シ河カハ東トウ是シ根ネ本ホンを
弘ヒロむれレバ位イ太タイ丈チヤウハ昔コト昔コト所シヨ子シ我ガ太タイ丈チヤウ其ソノ鼻ハナ。
髓ズイと滑カタクる。威アレヒハ機カラケ関クワン子シ能ノ言コト身ミぶクる。声コエを

出たりと云ふなりと見ぬがハ由りありけいこり
 して又をわさる二三繋ぎ打連て横山可なりあ
 玉指の度小路橋と流るまゝと右へ行昔
 花咲男とことぐく〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 合巻〜合中〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 男尻とつたてさる後ハ子落り子濃るて彼ら成る
 三書連るあへど粒多のあよ一ふよまゝ〜画〜

さまの髪と画く筆さよ似ればいゆゆありぬ舎
 者のあま掛り〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 とや繁んとほぐやさなかり本戸を〜
 上子紅白の水引を〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 と俄よいさるさよ子死を〜〜〜〜〜
 色白く〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 緬の標半以上爽め〜〜〜〜〜〜〜〜〜

らんとあ^{ウタカ}の^{モテモ}疑ひを^ハは^ハぬ^ハぬ^ハど^ハも。竹田^グは^{タイ}藤^{タイ}基^{タイ}年^{タイ}
 子^ハ智^ハく。口^ハ方^ハ正^ハ面^ハの^ハ男^ハり^ハを^ハす^ハ。志^ハ可^ハも^ハ不^ハ塔^ハの^ハを^ハ
 志^ハま^ハり。何^ハは^ハ仕^ハ掛^ハの^ハ者^ハも^ハ見^ハえ^ハぬ^ハ。教^ハ育^ハれ^ハ人^ハ
 の^ハ目^ハよ^ハさ^ハし^ハ仕^ハ掛^ハ乃^ハ見^ハえ^ハぬ^ハ。程^ハた^ハの^ハ色^ハの^ハ懸^ハ仕^ハ掛^ハ
 と^ハと^ハそ^ハを^ハ志^ハま^ハひ^ハひ^ハし^ハ回^ハあ^ハり。底^ハ人^ハ志^ハま^ハひ^ハ放^ハ
 と^ハい^ハち^ハど^ハ。中^ハ糟^ハと^ハ合^ハひ^ハし^ハ泥^ハを^ハ濁^ハく^ハし^ハ。教^ハ
 と^ハあ^ハり^ハて^ハ見^ハえ^ハぬ^ハ。可^ハぬ^ハは^ハく^ハど^ハと^ハ案^ハを^ハれ^ハハ^ハく

世^セ智^チ孝^{コウ}き^キ世^セの中^ノ又^マ人^ノの^ノ残^ノを^セし^メん^ト子^シ愛^{アイ}
 百^ハ化^ハは^ハ思^ハ業^ハし^ハく^ハ新^ハし^ハひ^ハる^ハを^ハユ^メも^ハ十^ハ十^ハ
 解^トの^ハ形^ハ時^ハ自^ハ新^ハし^ハき^ハと^ハ今^ハら^ハを^ハ古^ハく^ハ固^ハ古^ハを^ハし^ハ
 新^ハ古^ハし^ハ。此^ハ教^ハ尼^ハ男^ハ斗^ハハ^ハ時^ハゆ^ハは^ハ有^ハと^ハし^ハ人^ハも^ハ
 醍^ハ了^ハる^ハ。予^ハの^ハ我^ハ。日^ハ本^ハ。
 神^シ武^ム天^{テン}皇^ウ元^{ゲン}年^{ネン}と^シり^ハは^ハ年^{ネン}安^{アン}永^{エイ}三^{サン}年^{ネン}に^シて^シく
 二^ニ子^シ皇^ウ之^ノ十^{ジュウ}六^{ロク}年^{ネン}此^{コノ}皇^ウ業^ノと^シり^ハく^ハど^トと^ト

キウキ 奮紀のも又えんべいひにをばき 日本
の二たのしげを主朝鮮をらうの天皇河原池
請のあしにやあるはしに戲あひかたり。結
放しうと巻れ。一丸皆感心と遠末を
らり多と掛先生の海を張るう。舟中べき
る。まことゆきと又まはる田舎より耳なり。
石松令。右部としくる信あり。此の外は教也よ

て。抑々若く當るを原るおうを。それ芝居を
その教。公より。御免ある。人をわを
ふ。此。御中。君は。父子。夫婦。兄弟。朋友
の道とわう。一。大星。由良。介。は。お。わ。
忠臣の遣と成林。技。女。向。の。後。女。の。操。を
ま。く。む。ま。り。又。せ。り。の。長。板。も。も。親。の。罪
が。子。を。報。ひ。将。人。の。子。を。斷。と。成。惠。の。報。ひ。針

とハ聖人の教ありと。其節をうてのひふん。
孔子曰。子が穢甚是なり。去をかくいせ。道の
天あるゆとあらず。孔子ハ童孫とも捨て我亦
尻なりと云ふ中。海あり。又天地のるなるもの
皆自貴賤上下のあり。その中にあり。極のて。
下ふとあるもの。大小便よする。物さるを統を
漢よして。糞土といふ。日奉よして。屎のし

と。その糞小便のきよきも。皆み穀の肥とあり。
万民を養ふ。只尻の糞と者。皆雨の腹也。快ま
ふよして。是を谷に種。の長物あり。上天は。膏も
たよく膏とあり。といふは。川へ。膏あせども。た
穀穀のくく。すべきものあり。は。白ひのれ
とも。幼弱。穢腐。香のくく。用べき。糞あり。都て
人と。具。在。並。蒜。握。尻。は。乃。糞。子。か。り。

空^{クウ}より出^デく空^{クウ}は消^{キョウ}肥^ヒと云^{イハ}ふ人^{ヒト}ありがれ^レ。微^ミ塵^{チン}用^{ヨウ}
が之^レと云^フ。志^シ道^{ダウ}形^{ケイ}が濟^{セイ}肉^{ニク}儒^{ニウ}をき^キて^テ。底^{ソコ}の
儒^{ニウ}者^{シャ}とい^フ神^{シン}と云^フを子^コ系^{ケイ}の何^{ナニ}あり。終^{ハジマ}を
う^ウ天地^{テンチ}の用^{ヨウ}は所用^{ソヨウ}の物^{モノ}と成^{ナリ}果^{ケテ}て。何^{ナニ}の用^{ヨウ}に
もま^マざるものぞ。やつめがま^マひ身^ミを^シ終^{ハジマ}て^テ。終^{ハジマ}て^テ。案^{アン}
し^シさまぐ^グは撒^シま^マけ^ケ。洋^{ヤウ}判^{パン}の大^{ダイ}入^{ニル}小^コ芝^シ居^イを
どは^ド深^{フカ}へ^ヘ。物^{モノ}あり^リは高^{タカ}と人^{ヒト}々^々大^{ダイ}端^{タン}り^リ。八^{ハチ}菊^{キク}し

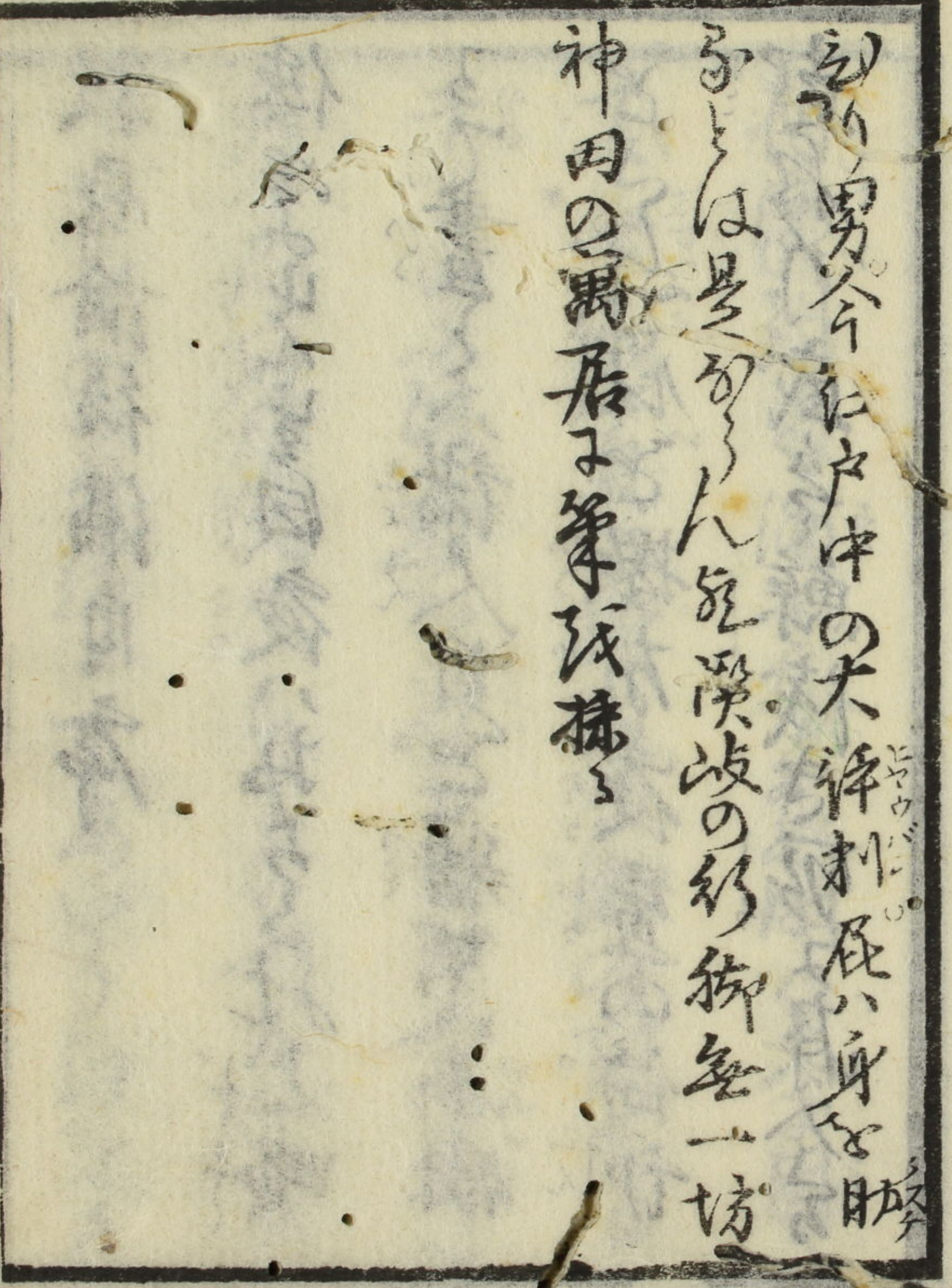
巫^ユが得^{トク}定^{テイ}も有^{アル}。屁^ヘは八^{ハチ}固^コ解^ゲ定^{テイ}をなく。惚^{ホレ}人^{ニヒト}を
なく。因^{イン}負^フをれ^レ。実^{ジツ}は本^{ホン}正^{テイ}味^ミむ^ムし^シ出^デす^ス。の
其^シ細^{サイ}務^ブ負^フ二^ニ寸^{サウ}は号^{ケツ}く^ク。奴^ヌ屁^ヘ服^{フク}する^ス。諸^{シヨ}の^ノ小^コ美^ミ
居^イを^シ一^{イチ}ま^マう^ウり^リは撒^シ淡^{タン}と^トの^ノ皆^{ミナ}屁^ヘ威^イ定^{テイ}と^トは^ハける^{ケル}。
よ^ヨを^シ地^チに^ニで^デり^リ。八^{ハチ}底^{ソコ}柄^ケ者^{シャ}を^シま^マる^ル。八^{ハチ}諸^{シヨ}の^ノ音^{オン}曲^{キョク}者^{シャ}。い
よ^ヨを^シ舌^{ゼツ}の^ノは^ハ背^セへ^ヘ。舌^{ゼツ}の^ノ咽^{ノド}を^シい^イく^ク。肝^{カン}通^{ツウ}は直^{チキ}
ひ^ヒ口^ク唇^{レン}を^シ信^{シン}ず^ズ。結^{ケツ}念^{ネン}ハ^ハり^リ。ぐれ^レも^モ声^{セイ}の^ノし^シ

一粒^{シツ}の裏^{ウラ}にひそ^{ヒソ}く。醫者^{イシャ}をた^コは家^カ後^ゴ
 世^セ家^カと。後^カ無^ム慶^{ケイ}の後^ゴ禱^{トウ}ハま^マま^マも。治^チる^ル病^{ヤメ}
 も禱^{トウ}の好^{コウ}ど。流^{リウ}行^{コウ}の皆^ケ殺^シ。禱^{トウ}の宗^{ソウ}匠^{ジュウ}
 穀^{コク}ハ芭^ハ蕉^{ジョウ}其^キ角^{カク}カ^カ延^{エン}と^ト紙^シ茶^{チャ}人^{ジン}乃^ノ人^{ジン}柯^カ流^{リウ}め
 くも。利^リ休^{キウ}宗^{ソウ}且^{ジュ}が糞^{ケン}と^ト糞^{ケン}。中^{チュウ}法^{ホフ}義^ギ皆^ケ
 衰^{ソイ}へ^ヘ己^{コノ}が才^{サイ}受^ウ子^シ多^タ其^キ。古^コ人^{ジン}の志^シふ^フ。ま^マ
 る^ルも。古^コ人^{ジン}は^ハま^マかへ^ヘも。ま^マか^カがる^ルハ^ハを^ヲ用^{ヨウ}ざ

る^ルが^ガあり。志^シは^ハま^マは^ハ放^{ホウ}展^{テン}漢^{カン}今^{イマ}を^ヲ用^{ヨウ}ぬ^ル弊^{ヘイ}以^ヒ
 つ^ツ。古^コ人^{ジン}を^ヲ撒^サぬ^ル曲^{キョク}展^{テン}を^ヲシ^シり^ル也^ヤ。一^{イチ}天^{テン}下^カを^ヲ
 名^ナを^ヲ取^{トル}る^ル海^{カイ}平^{ヘイ}が^ガ白^{ハク}。我^ガも^モ天^{テン}下^カに^ニ事^ジす^ル
 志^シめ^メば^ハ肉^{ニク}の^ノど^トと^トん^ン。我^ガも^モ亦^{モトモト}謂^{イハ}く^ル賢^{ケン}人^{ジン}
 あ^アる^ルは^ハ展^{テン}れ^レま^マく^クユ^ユ史^シと^トし^シ。天^{テン}下^カの^ノ人^{ジン}を^ヲ
 救^{クウ}む^ム。其^キ功^{コウ}大^{ダイ}あり^リん^ンと^ト用^{ヨウ}る^ル徳^{トク}也^ヤ。且^{ジュ}も^モバ
 展^{テン}ま^マも^モ於^オか^カの^ノじ^ジ。守^{シュ}海^{カイ}世^セは^ハ志^シ人^{ジン}或^カも

神長^{ホソナガ}にしておれしは是^{ユミ}等^{トコ}ハ皆^{シテ}素人^{シロヒト}を考^シ
子^コ撒^ヒる^ル所^トあり。彼^{カノ}放^ハ屋^ヤ男^ヲの^トとく^ク考^シて^テ考^シて^テ考^シ
取^クりて^テハ^ハ板^イさる^音の^クく^ク傳^ワは^スる^形に^シ押^シ分^ク
ある^所ぞと^云ハ^彼々^母乃^子羊^ヲを^好む^所の^式取^ル
け^置子^六吹^井と^天日^えと^院院^一鳳^凰屋^之
年^ハの^之體^氣の^案今^と妻^をと^て梅^白の^身
以^証生^ゼト^イぐ^成人^ナリ^と比^ひく^ゆく^功を^展

神^{カミ}の^男今^{イマ}に^戸中^ノの^大神^{カミ}刺^シ尻^ヲハ^身を^助
ふ^とは^是の^人は^深波^ノの^幼御^ミ無^一坊^ト
神^{カミ}田^ノの^馬居^子等^ト取^持す



長

教辰論後編自序

倭こ學がくのちんせい先生せいせい曰い夜よるハああらるは此こゝ上じやう略りやく

ろて書かとハ諸あよ人じん皆みなと寤ごせん不ふ収しゆ

ととしし此こ辰ちんと撒さちち夜よる直ぢきの徳訓くん

起おこりり威い々々鯨くじら浅あきき所ところ又また森もり入いるる

内うち激げき烈りやくとと海うみととああままのの時ときハハ大おほにに固こま

てて無む術じゆつ空くう氣きとと撒さちちああままのの激げきのの引ひききとと

干ひるとといいふふ道みちとと好このおおせせ神かみとと

怪いままとといいひひええびびとといいふふええびびとと

づづびびとといいふふ遠とほままててああららうういいとと

ひふへほ乃通韻つういんより語りまわす。
 又日本武やまとぶけの事ことを夷征伐の時えいばつ。
 ども予よ火とりけ。大勢一皮子
 尻しりとまらうて接つぎれ。煽ほのきの方かた。
 吹ふ塵ちり沙さ才さい子し火掛ひかけらんときくる時

流初ながはつとぬいづく投射なげあつべ夷えいの毒どく。
 とあつてり子切きれハ方かたへ逃にげ。
 逃にげるるゆとへす。名なきまのひ娘むすめめ。
 六む尾び滑なめ血ちあつ。尾び滑なめ十と本ほんの市いち劍けん。
 多おほのあまを回まわるるといふ家いへ。
 と改かへて鼻はな蕪わら乃の寝ね劍けん手てのあま。

真実の物をと雑らうとせしむるは詞人。
方政の乃法盛ハ古の病と懸ひ。
神ハ吾國を痛まふと入るる體を
漫せハ昂時ハ湯とちふる後
大あつ池と極か幾川のあを堰

の遠めりるまゝ火激しく頼
底と撒しよより。底池の大おと名
せられ。記せし記録と底池物語
いふ後世の事か手書ハ當字あり
寺の事記す於伊豆の玉

庶子孫も清繁居於いつまぐら活延るを耻ハチ
の上あり。征浪人のまふありと。春さ記の華鬘魚アヒナ
と目出度世代の侍ハ修くま直が下り。工農商イノノリ
の之民ミンも昔は素餐の格カフヒツツシもふりね。まさうの
時ハ侍ぐかりね世ハ治るど。日本ハ小国
でも唐高カラ悪う指ユビもさくせぬハ皆武徳ブツクが
りとりありと。ふひ生を者もふまハ。是ぞ

倭子太平の世の沙身澤井と鑿ホリく飲耕ノミタカ
て食クハも提燈テウテイうりて禮レイハ以とも。月日ツキヒも礼ハ
いさざるは等ヒトし。修くを平の仁ニよあま世上
一統イツ金根キンネの之目メ付友トモ先祖センゾハお馬ウマの先
又進イマ義ハ金秩キンシキよりも堅カタく。命イノチハ塵芥チシカイよりり
も將カサしと踏フミ止トく高名タカナと彫ハく。家柄カケの
子孫シソンでも又君イサメと棟ツクシ万民マンミンと教ヲシえ國家コクカの

礎と堅みとんと心と碎く忠臣でも算盤の枱
と合と見え二急早急子金よちねバ二忝
言語及即六沈が二進雪隠が決ちん尤乃
せまへ仕送り用人よ乗越せおのおの由儀
ある數代出入の町人でもふね急よぬれ
あしらの暇合日まで色代な公事
那帝の成りても合よ入持を遣送物持

御望獨御安全様の字までとひぬくり
出くく六字交認るハ地獄の沙汰も合
合よ敵の世の中。されハ教も。証敵合
かいゆ急証さく合よあるちり証ハさし
又それよ付くも合よのちりさよといつ下男
ハいづれの也とも連厲さくを昇劣千万
是え。富十郎が控入も合よの依り

いふおまよひも才覚の斗第ふも味を所へ
目のつく世の中。付らざる方まで。映くと不
めまよひ付。一室中。瘡の穢者たを止りて
鈴の穢者たが初りし。の穢者たよくく。ゆげを。
禮といふ字の令篇。とつよ字の鈴の令篇
又令といふ字のあれハきあつて止りて
あつて今と今と。あて字あつても今
今

黙止が。いづる名人達人ても金なき
花生ハ雙一と併もあつてひく。見
え。いつの比よりあつて。江戸。林田の道
コ。貪家。浅内といふ。法もなき。瘦浪人
あり。抑彼が系圖を。天兒屋
根命の苗裔大猷冠。謙是公の。子。敬系
淡海公。後。おまよひの浦。あつて。海士人と野合

かの面向不背王と採^{トリ}はめ^エの時一日廿六廿四又
下人^{シノ}多^{カク}よ^フ備^{ハイ}られ浦人^ノよろ^クひ引^キよ^リり
と^カ謡^ヒも^ト作^レられ^ル。戦^シ場^バぐ^リくも^ト名^ナも^ト名^ナも
を^シい^ク。俊^ト者^ノの^ミる^ル浦^ノ人^ノの^メ流^リる^ル。母^ノ後^マま
浪^{ナミ}圍^メ扇^ヲと^ト香^トと^ト又^トく^ト懷^ク胎^ク。以^テ者^トと^シて
より^テ。貪^ヒ之^ノ神^トと^シ氏^ノ神^トと^シ作^シぎ^テ。七^ツ福^ク祿^トと^シて
く^ト。故^レ々^トと^シて^シ江戸^ノの^俊者^トと^シて^シバ^シ流^ルる^ル

或^ハ百^ノ石^ト。無^ク在^ル。多^クなる^ル。く^トも^トく^トも^ト。以^テ男^ト
物^ヲ一^ツツ^クる^ル。オホ^エも^トなく^ク。又^ハ無^ク在^ル。多^クなる^ル。あ^らう
ざ^られ^バ。ど^うと^シて^シく^トも^トく^トも^ト。の^ちら^らく^ク。洋^ノ磯^トも^ト
よ^うと^シて^シ。浪^ノも^トつ^らら^レ。流^レ海^ノの^松葉^トで^シ
鍔^ノの^様焼^キ。纒^ウ襪^ハ魚^トと^シ欺^ムき^テ見^シ識^ハ吉^ノ原^乃
天^ノ水^桶より^も多^クく^ト。智^ハ恵^ハ品^ノ川^の雪^隠より^も
も^ト流^ル。と^シて^シ。こ^のけ^おと^シの^駄味^者と^シて^シ千人^ト一人^ト

て。一生と云ふは。折角親の老付、畢丸を
身まきる。浪人の心易き。一簞乃
坊ゆきけ一瓢の小半酒。恒の産る子代不
主人といふ贅もあく。知つといふ飯粒足
裏よむの付せ。ゆきとを駐やぐり。夜な
ハ糸みく仕舞ふ。せめて一生の體
自由はまらる。ぐらうけらる。却際るを幸よ

種くのエ夫とあぐりく。何卒 日本
銀と。唐阿蘭陀へ引たくらね。一ツの
もあらん。と。ふもつ。ゆる依平。く。せ
てハ寸志の 國恩と報らるといふも
くさし。そ。佐。あ。が。れ。が。を。謀
えの。程。あ。る。あ。大。呆。と。己。も。知。る。ハ。居。る。あ
う。れ。ど。蓼。食。の。蟲。も。好。く。と。せ。れ。付。く。了。る



飯塚其武十七年画

七

不^フ抽^モ好^ノ多^キ 堪^カり^マよ^カい^マつ^ク 櫛^シの下^ノ北^キ方^{ホウ}格^{キョク}
お^お骨^{ホネ}を^をけ^けの^の中^{ナカ}に^にあ^あれ^れさ^さて^て居^いせ^せる^る
て^ては^はら^らつ^つた^た人^{ヒト}の^ノ體^{カガミ}を^を火^ヒを^を出^いす^す。病^{ヤマイ}を^を治^なす^す
ある^{ある}器^{モノ}を^を作^{つく}り^り出^いせ^せり。折^マり^り易^いき^きハ^ハ西^{サイ}洋^{ヤウ}の^ノ人^{ヒト}電^{デン}
の^ノ理^リを^を知^しる^る考^{カウ}。一^一旦^{クワン}ユ^ユ支^シハ^ハ付^ツく^くは^はな^なし^し。ま^ま又^{マタ}
の^ノ生^ウ涯^エを^をみ^み成^なる^るに^に。三^三代^{ダイ}と^と終^はる^る成^な終^はる^る一^一
ら^らと^とい^いつ^つり。阿^ア茶^{チャ}化^カ人^{ジン}と^とい^いへ^へど^ども^もあ^ある^る者^{モノ}ハ^ハま^まえ

か^かく^く固^コ削^{クワ}解^ゲ唐^{タウ}天^{テン}竺^{タク}の^ノ人^{ヒト}ハ^ハ夢^{ユメ}を^をも^もた^たる^るは^は況^{キョウ}や^や
日^{ニッ}本^{ポン}周^{シュウ}勃^{ハク}汗^{アン}身^{シン}創^{ソウ}と^と出^いせ^せら^らる^るは^は高^{カウ}才^{サイ}
の^ノ素^ソと^と初^{ハジメ}と^とい^いて^てム^ムン^ンと^と教^{キョウ}ふ^ふ若^{ニホ}夥^カト^ト。
或^{アル}日^{ニッ}去^クを^を交^{カウ}の^ノ儀^ギを^を石^{イシ}念^{ネン}彩^{サイ}み^みれ^れる^るは^はさ^さら^らに^に
人^{ヒト}あ^あり^りて^て觀^{カン}る^るは^は良^{リョウ}ク^クと^とい^いて^て曰^{イハ}く^く天^{テン}地^チ人^{ジン}の^ノ才^{サイ}
は^は通^{ツウ}達^{ダツ}ある^るを^を儀^ギと^とい^いふ^ふ。亦^{オク}天^{テン}下^カの^ノ書^{ショ}は^は眼^{ガン}に^に
さ^さす^すト^ト。理^リを^を知^しる^る推^{ツイ}を^を對^{タイ}ハ^ハ森^{シン}林^{リン}羅^ラ万^{マン}象^{ゾウ}明^{メイ}

うらうらうらうらありあべうらうらと云ひしが。今を
見せぬ娘を驚く。それ燧と石扁柏と扁柏
お激するを。又ハ日輪の水精硝子を照す。
或ハ鏡に映る時ハ火と生す。時を臨て
目も出散るも出。扱又負ある空のハ
火の降るも火と云ふもかかるハ云ひも
よろむ。いさする理にて火出るや。後学の
心

あんと。是時主人の書と読年と學商
と云ハ。紙上の空論と格物窮理と云ふ
より。遠くも出あるなり。さうハ火の出る根元
をお目よかけんと。丸出を小冊子。昔語花咲
男放屁論と題考せり。主人笑く。さうハ折
は。花咲男と号。云々。のりて近年の大書

九六

法モウの小シ戯シ場バを撒シきツりテ越シはシ放ハ屁ヒ論ロニシ洋ヤウ
有リ。今年コノトシまシるニ采ウチ女メ原ハラまシ出デぐニ玉タマ福フク平ヘイと
名ナあり。おけ者オケモノの力チカラの上ノとシるニ。父ウチノハ大オホ和ワの
玉タマ吉キチ舟フネのゴクのカク猪イノ猿ノ。依ヨシ次ジをシ湯ユとシるニ者モノあり
しガ。年トシ末ノウチの猪イノ猿ノと報コトちシ罪ツミ亡ナシしニ。や
あハいクんノ。近チカ市シの若ワカあハ人ヒトとシひシ合アヒ會ヘ四シ国クニ唯タ礼レイ
ふシ出デるニ。彼カノ殺コロせシの報コト名ナ。伊イ豫ヨの玉タマまシ出デて。

依ヨシ次ジをシ湯ユをシなシぐニ猿サレとシ成ナリとシ林ハヤシの中ノ中ノ逃ニゲ
ひシれバ。二ニ人ヒトの連ツレハあハまシれニ果ハチ。そレ非ヒるニ。玉タマ子コ
ゆリるニ。今イマをシ遠トウよシ。一ヒトの長ナガ屋ヤの依ヨシ次ジをシ湯ユ
後ノチ。伊イ玉タマとシあハらシてシ猿サレとシあハるニの二ニ人ヒト乃ハ
連ツレ流レハゆレれトも。お猿サレのあハるニれバ。さシてシ赤アカ
んノとシ。けレのニ因ユヰ縁エンありシ。さシてシあハるニ人ヒトハあハまシ
ゆリ。將セガシ福フク平ヘイをシ次ジとシゆレバ。下シタ方カタありシ。あハ



本^タ才^カ空^{クウ}秘^ヒ密^{ミツ}も悟^ゴ道^{ダウ}も引^{ヒキ}らる^ルあては日^{ニチ}輪^{リン}やう
まらふれば。土^{ツチ}ハ皆^{ミナ}本^{ホン}體^{タイ}の石^{イシ}。水^{ミヅ}ハ皆^{ミナ}本^{ホン}體^{タイ}の
氷^{ヒョウ}る^ルた。柔^{ユウ}木^{ボク}を^ヲ生^ナむる^ルやうく。魚^{イサ}鼈^{ヘビ}と^ト育^{イク}
まべき道^{ミチ}る^ル。伎^キ志^シあつても。能^ノを^ヲあつれば
戲^シ場^バの^ノ本^{ホン}才^カなる^ルコト。かゝる^ル乃^ハ能^ノを^ヲ習^シ
時^{トキ}ハ糞^{フン}と^ト成^ナり^ルも。屍^シの^ノ出^デる^ルも火^ヒの^ノ聲^{コエ}
も。同^{ドウ}く體^{タイ}の^ノ小^コ天^{テン}地^チ。固^{コト}怪^{クワイ}なる^ルされども理^リ

よらうま^マ柴^シハ。燧^ヒより^リ出^デる^ル火^ヒハ。皆^{ミナ}なる^ル乃^ハ怪^{クワイ}
まじ。あな^ナを^ヲそ^ソる^ルより^リ出^デる^ル火^ヒハ。飯^イ糲^{ソウ}幻^{ゲン}術^{ジュツ}の
如^ニく^シん^ニ也^{ナリ}。又^{マタ}八^{ハチ}圖^ツ族^{ゾク}も^ト女^メ人^ニ形^{カタ}と^シて^シる^ル是^レ
魁^{ケイ}と^シ呼^コぶ^ルる^ル者^{モノ}も^ト多^シき^ニ中^ニ也^{ナリ}。天^{テン}文^{モン}曆^{レキ}數^{スウ}璇^{セン}
も^ト甘^{カン}も^ト春^{シュン}也^{ナリ}と^シて^シる^ル也^{ナリ}。既^スに^チ通^{ツウ}達^{タク}せ^ル
る^ルハ。回^{クワイ}と^シ骨^{ボネ}あり^テて^シる^ルも^トあ^リ人^ニ乃^{ナリ}。
分^{ブン}量^{リヤウ}多^ク也^{ナリ}の^ノ程^{ハジメ}と^シて^シる^ル人^ニハ。僅^{ワン}の^ノ塵^{チン}と^シて^シる^ル

ろる。多々^{タタ}なる浪人者や。日待月待^{ヒツキツキ}を待てし
 雑劇^{ザツゲキ}の藝者^{ゲイシャ}内極^{ウチキョク}の^{ウチ}なる^{ナリ}苦^クし。凡^{マン}
 天地の^{テンチ}なり^{ナリ}火^ヒを^ヲ引^{ヒキ}き^テ抽^{ヒキ}る^ル。其^{ソノ}火^ヒの^ヒを^ヒ
 と^ト目^メを^ヲ入^ヒり^テ諭^{コト}を^ヲな^スる^ル。や^ヤど^トも^モき^キ苦^クは^ハ
 又^{マタ}昔^{コト} 日本^{ニッポン}

神武帝^{カムヤマト}より今年^{コノトシ}まで二千四百三十九年死
 で^デ生^ナる^ル。入^ヒり^テ始^ハる^ル人^ヲを^ヲ數^カか^スる^ル。人^ヲを^ヲ入^ヒり^テ始^ハる^ル。

大^{オホ}智^チの人^ヲる^ルの^ノあ^ハら^ハる^ルと^ト極^キんと^ト極^キんと^ト
 極^キる^ル極^キと^ト極^キユ^マと^ト極^キル^ル。今^{イマ}の^ノ極^キと^ト極^キる^ル。
 工^ク出^デる^ル。其^{ソノ}の^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。の^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。
 倭^{ヤマト}の^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。の^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。も^モ亦^{モト}あ^ハら^ハる^ル。
 世^ヨの^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。の^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。山^{ヤマ}除^{ノケ}と^ト極^キれ^ル。
 前^{マエ}捕^トる^ル。猫^{ネコ}八^{ヤチ}爪^{ツメ}を^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。の^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。
 自^ミら^シの^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。の^ノ極^キを^ヲ引^{ヒキ}き^テ出^デる^ル。山^{ヤマ}除^{ノケ}と^ト極^キれ^ル。

ざらふものもあるまじく。近ひ例タテマハ急れきてる故。
 支那の漢字の足を取ら出さず時ハ押へけり。
 大令マヤ豪徳綿羊ウールなどの例もあつと。其の
 者も多かれど陰陽の理とおもひし物と勿辨ウチガイ
 ろし。合意せしむれば有子ハ飴をえんく老
 と書んふとさひの盗路ハ淀と明んふとさ
 それを製ツクリのうらる。其ハ綿羊と目くく

日本も、羅紗ラマらせりてさるくさんさるん
 とらせんつるへとあんさるせ毛モウ穂類ホムの毛織ウチを
 織オリせ。外國ガイコクの織オリを織オリぞ。用キウハ海人カイジンとんとカク
 牛ウシハ手テ織オリよ織オリをせり。ちんと針カカ。其コノ物モノは
 けり。畜チクトヤとて毛モウ織オリく。其コノ家の益エキ
 もなる物。ちやせんなどあてまひる名
 ぞつり。其コノ物モノでカク織オリを塗ヌりちりし。其コノ物モノ

といふねば。人當世とあり及とらふ折は當世と
 いふとの今をうりかえあるは。祝鮓が倭有て
 宋朝が美ありむんを難乎今の世に免れん
 といふあれハ昔よりあるの當世とて。八百餘
 が助六ハ拍筵が助六うれども。人今夫の世に
 とも片裾の。その山當世とありむん
 ありねども。万人の盲より一人有眼の人と

ありて。假も退後輕海といふれハ時ありぬ
 ハ持参る。されとも人と。冥加の
 國恩と報せん。とありんを。世に
 といふ山脈といふ。予戲く曰。智ある者。智ある
 とき。老と深ある。麻といひ。たけの。あり
 といひ。るら。坊といふ。とも。智ある者。智ある
 あり。とも。と。深ある。を。河といふ。あり。とも。

跋

風来山人放屁論後編とひり出
 て予もよく尻の跋せむ按ぎま
 放屁字典と曰屁ブブウノ反音ブブウ
 去聲一幾しく音スウ論語ニ恐謂
 舞雩の風とく詠とく屏らん六
 それこれ星とくみ欵此書や始ハ

狂言術語の子と尻を放り中ハ萬物

乃理と掌と握り尻の極意とくま

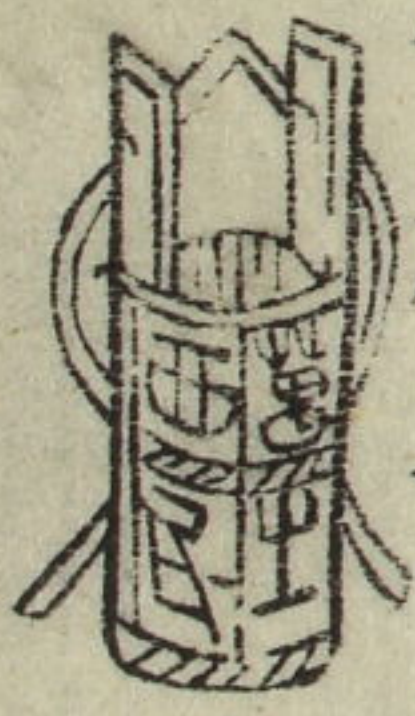
合ふく尻乃尻とくま読者

臭と逐り高み升の皆様尻の一助

うん云尔

葛西土民姑射杜老番船の

中子書





Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side. The text is faint and difficult to decipher but appears to include:

目錄
卷一
卷二
卷三
卷四
卷五
卷六
卷七
卷八
卷九
卷十



